

生コン関連団体第1回集団交渉



労働者の団結力で要求実現を！

15春闘 いよいよスタート

労働条件改善に向け業界再建を！

テーマ決めて
真剣な議論を

生コン産業政策協議会（全港湾大阪支部・生コン産労・近圧労組・連帯労組関生支部）は、3月5日、協同会館アソシエにて第1回集団交渉を開催。集団交渉の冒頭、政策協議会は国際・国内情勢およびセメント・生コン業界の情勢に触れた上で、15春闘に臨む基本姿勢を述べた。

「今春闘の最重要課題は業界再建。そこに全力を尽くさなければならぬ。業界再建とは大企業の収奪と闘い、そこから財源を得ることだ。」

政策協議会は14春闘と同様、今春闘を『政策春闘』と位置づけて闘う。『政策春闘』とは、経済・産業を民主化すること。そして、中小企業が潤う環境をつくるためにともに闘うことだ。

対する経営側の認識、統一要求に対する認識を明らかにしてもらおう。

特に、一昨年と昨年の賃上げ分について、現在の賃金には組み込まれていない。この問題についても結論を出さなければならぬ。

集団交渉は3月26日まで設定している。議論・交渉を尽くした上でこの日に解決できなければ4労組は行動に入る。労使が真剣になって交渉に臨もう。

生コン産業政策協議会（生コン産労・全港湾大阪支部・近圧労組・関生支部） 大阪市西区川口2-4-28 Tel.06(6583)5546

15春闘共同ニュース

2015年
3月05日号

協組崩壊・・・その原因はどこに？

広域協組をダメにした主要な原因はセメント
ト拡販と労働組合潰しに奔走したセメント
メーカーにある。



この間の大阪広域生コンクリート協同組合が行った愚かな政策

- ① 2010年長期にわたるストライキで得られていた値戻しを白紙にしたこと。ゼネコンに擦り寄り労働組合と距離を置くとして約束を反故にしたこと。
- ② 大阪兵庫生コン経営者会から直系工場を集団脱退させ集団交渉潰しにかかったこと。
- ③ 直系工場の専業化、生コン輸送の下請化と本勤労働者を意図的に削減し日々雇用労働者を増やす、備車による運賃引き下げ。これによるコスト削減と労働組合対策を実行しようとしたこと。
- ④ 労働組合の影響力のある中小企業を価格競争により潰し、労働組合の影響力を削減しようとしたこと。
- ⑤ 労働組合間の分断による闘う労働組合への敵対と闘わない労働組合の育成を図ろうとしたこと。
- ⑥ 大阪広域生コンクリート協同組合はゼネコン、販売店へは媚びを売りセメントメーカーの言いなりになりセメント価格を一方向的に値上げしようとした。
- ⑦ 一部の中小企業には集約メリット、販売量拡大などの条件を与えた。この間違った大阪広域生コンクリート協同組合の方針を支持させたこと。
- ⑧ 一部の役員を工業組合、協同組合の交際費づけにし間違った執行部の方針を維持しようとしたこと。

組織拡大に全力を挙げよう！

大企業の収奪と闘うには、中小企業と労働者が連携しなければならない。しかし、春闘の要求を実現させるには中小企業と闘う必要がある。

業界を再建させることと、今春闘を勝利するには労働者のパワーが必要である。パワーとは組織の量と質である。

それぞれの労組の持ち味を活かして組織拡大に取り組みなければならない。

その、パワーを背景に15春闘の要求を実現させよう！



回答次第で
3月26日以降は、

ストライキに!

次回交渉は3月13日13:00